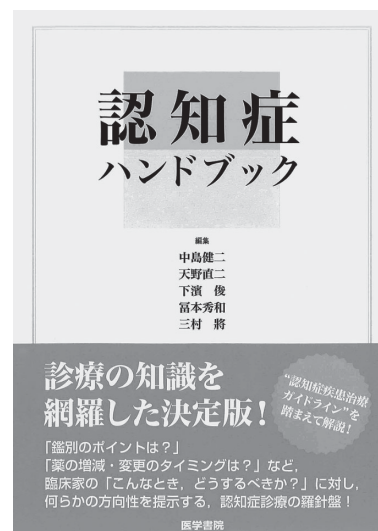


認知症ハンドブック

中島健二，天野直二，下濱 俊，富本秀和，三村 将 ● 編

筑波大学教授・精神病態医学 朝田 隆



私は多少とも医学書出版の企画に関与した経験から、「類書がない」ということが新しい企画が審査委員会をパスする重要要件だと知った。ところが近年の認知症本はやりともいえる状況においては類書だらけである。大型書店の認知症コーナーに立つと、多くの編集・企画者は「似たものをどうやって差別化するか？」に相当な努力をされているなという印象さえ抱くようになっていた。つまり個性の乏しい認知症関連書籍の出版がこの数年多すぎるのでないかと思っていたのである。

ところが本書はその印象を久々に打ち破ってくれた。まず認知症時代にマッチしたエンサイクロペディア風に仕上がっている。すなわち認知症を扱う医学書としての基本は踏襲

しつつ、従来の書では記載の乏しかった多職種の連携や介護保険制度といった地域ケアのポイント項目もしっかりと扱われている。認知症医療に携わる者が「はてな？」と思ったときに、すべての疑問に応じられる漏れのない目配りがなされている。また4大認知症（アルツハイマー型認知症，血管性認知症，レビー小体型認知症，前頭側頭葉変性症）とよく言われるが，本書ではそれ以外の変性疾患や感染症による認知症も詳述してある。こうした点は，初学者はもとより専門医にとってもありがたい。さらに本書の執筆者はこれまでの成書の執筆者に比べて若く気鋭の先生が多い。それだけに発想や記述が新鮮である。

さて，本書の最大の特長は，各疾

患の一般的な記述の後に，「患者・家族への指導・アドバイス」と「看護師・コメディカルなどへのアドバイス」というユニークなコーナーが設けられていることだろう。臨床家にとってこのようなアドバイスは日常的な行為であるはずなのだが実は容易でないだけに，何ともありがたい。恐らくはこのようなコーナーを設けた「類書はない」だろう。

認知症臨床にかかわられる方なら，初心者から熟練者まですべての医師に座右の書として本書をぜひともお薦めしたい。

A 5 頁 936 2013 年

定価：本体 10,000 円＋税

[ISBN978-4-260-01849-4]

医学書院刊